

第8回「狭山市民芸術祭」みどころ紹介

企画公演 春ものがたり

あの小林一茶が「若竹や山はかくれて入間川」と詠み、道興上人は「立ちよりにてかげをうつさば入間川」と歌いました。いま、舞台によみがえる入間川の栄光と風光！

(概要)

平成19年2月23日(土) 小ホール(有料)

開場 14:00 開演 14:30

第1部 花さき山 ~語りと和楽器による~

菜の花の詩 作曲：宮田耕八朗

邦楽の美しい調べが、舞台の上から春の訪れを告げます。

野面を黄色く染める菜の花。明るい陽光の下、小鳥たちの高らかなさえずり。<さあー春ですよ！> 春ものがたりの開幕です。

花さき山 作：斉藤隆介 絵：滝平二郎 作曲：宮田耕八朗

山菜を採りにいって山の中に迷いこんでしまったあやが見た光景は、山一面に美しく咲く花。出会った山んばは、あやにやさしく語りかけます。自分のことよりも人のことを思うやさしさ、そんな一人一人の気持ちが、この山に花を咲かせるのだと。……

斉藤隆介の名作「花咲き山」の感動的な世界を、邦楽の調べに乗せ舞台上に繰り広げます。

第2部 入間川の春 ~見つめる一茶の目~

長い長い歴史を持ち、かまくら道の渡河点として賑わいを見せた<道と川のまち>入間川の里は、古典文学をはじめとして、古い歌、あるいは史書にも数多く取り上げられています。

俳諧俳文集『おらが春』で有名な江戸末期の俳人小林一茶も旅の途中、この地を訪れ、入間川を詠んだ句を残しています。第二部では、1811年春入間川を訪れた一茶と共に、古典・古歌から様々な美しい『入間川の春』を回顧します。

一場 萬葉入間道(いりまじ)の歌

二場 義高哀歌

三場 唐糸草子より奉納舞

四場 廻国雑記より和歌群読

五場 一茶と子どもたち

フィナーレ 狭山ふるさと音頭

チケット料金

・当日 800円(前売り 700円) 全席自由

主催：狭山市民文化団体連合会

共催：狭山市民会館

